

学校経営アカデミー

2025.10月号

第 81 号

〔特別連載〕 高等教育政策を解説する

スーパーグローバル大学の事業成果を踏まえた、
今後の大学等の国際戦略を展望する

〔特集〕

2025年国際科学オリンピック
スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会

一般社団法人 学校経営アカデミー



表紙画像　メリーランド大学カレッジパーク校（アメリカ）
1856 年設立。首都ワシントン D.C. の郊外に位置する州立の総合大学。パブリック・
アイビー（州立大学版アイビーリーグ）の一角。
Times Higher Education による「World University Rankings 2025」では総合 112 位。

学校経営アカデミー配布先　約 8,000 部

大学	約 1,700 部	理事長・学長・入試・広報 等
短期大学	約　250 部	理事長・学長・入試・広報 等
専門学校	約 1,300 部	理事長・校長・広報 等
高校	約 4,600 部	学校長・教頭・進路指導部長 等
学習塾	約　　50 部	代表取締役社長・会長・塾長 等
各協会団体	約　100 部	会長・副会長・理事・事務局長 等

一般社団法人　学校経営アカデミー　代表理事　　米田英一
株式会社 JS コーポレーション　　代表取締役　米田英一

特別連載

02　高等教育政策を解説する

スーパーグローバル大学の事業成果を踏まえた、
今後の大学等の国際戦略を展望する

学校経営アカデミー首席研究員／大学マネジメント研究会　会長　本間政雄

[特集] 教育クローズアップ

10　2025 年国際科学オリンピック

18　スーパーサイエンスハイスクール（SSH）
2025 年度生徒研究発表会表彰校

22　マーケティングデータ
専門学校の分野別入学者数の推移／大学の分野別入学者数の推移

24　大学の充実の施設を紹介
桜の聖母短期大学／朝日大学

26　専門学校の充実の施設を紹介
日本こども福祉専門学校／専門学校 岡山情報ビジネス学院

表1 SGU37校の事後評価結果

5段階評価	トップ型13校	グローバル化牽引型24校
S	東北大学	千葉大学、国際教養大学、上智大学、立命館大学、立命館アジア太平洋大学
A	北海道大学、筑波大学、東京大学、東京医科歯科大学、名古屋大学、京都大学、広島大学、早稲田大学、慶應義塾大学	東京外国語大学、東京藝術大学、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、京都工芸繊維大学、奈良先端科学技術大学院大学、会津大学、国際基督教大学、芝浦工業大学、東洋大学、法政大学、明治大学、立教大学、創価大学、国際大学、関西学院大学
B	東京工業大学、大阪大学、九州大学	金沢大学、岡山大学、熊本大学
C	なし	なし
D	なし	なし

（注：太字は国立大学。）

全体的にも、「採択大学において当初の構想が着実に推進されただけでなく・・・採択校以外にも波及効果がみられ、わが国の大学の国際化を牽引したと言える。」と肯定的に総括しています³。

また、「採択大学においては、・・・外国人留学生受け入れの40%超、日本人学生の海外送り出しの30%超を占める」一方、在籍学生に対する留学生の割合も、非採択校では10年間で3.1%から3.4%に上昇したのに過ぎないのに、採択校では、6.5%から10.1%に上昇したとするなど、「留学モビリティの拡大を牽引した」と評価しています。

2 SGUの「ロジック・モデル」

「ロジック・モデル」とは、聞きなれない言葉ですが、「ある施策がその目的を達成するに至るまでの論

理的な因果関係を明示したもの。」と説明されています。そして、「ロジック・モデルを策定することは、事前又は事後的に施策の概念化や設計上の欠陥や問題点の発見、インパクト評価等の他のプログラム評価を実施する際の準備、施策を論理的に立案する等のうえで意義のあることである。」としています⁴。簡単に言えば、ある政策の成果の評価を行うことにより、当該政策の問題点を明らかにし、次の政策に生かすことです。

SGUのロジック・モデルは、上述のように、全体として所期の目的を達したという評価がなされています。一方で、B評価が6校（16%）あり、それらすべてが公私立大学の先駆となるべき国立大学であったことが気がかりです。

また、採択校において在籍学生に対する留学生の割合が上昇したと言っても平均で約1割に留まっていること、また、留学生の割合は、学部によって大きな開

きがあり、例えば「国際教養学部」などの国際系学部
に留学生が集中する傾向があります。このことは、学部によっては、日本人学生が外国人留学生と切磋琢磨する機会がほとんどないという状況を生んでいます。

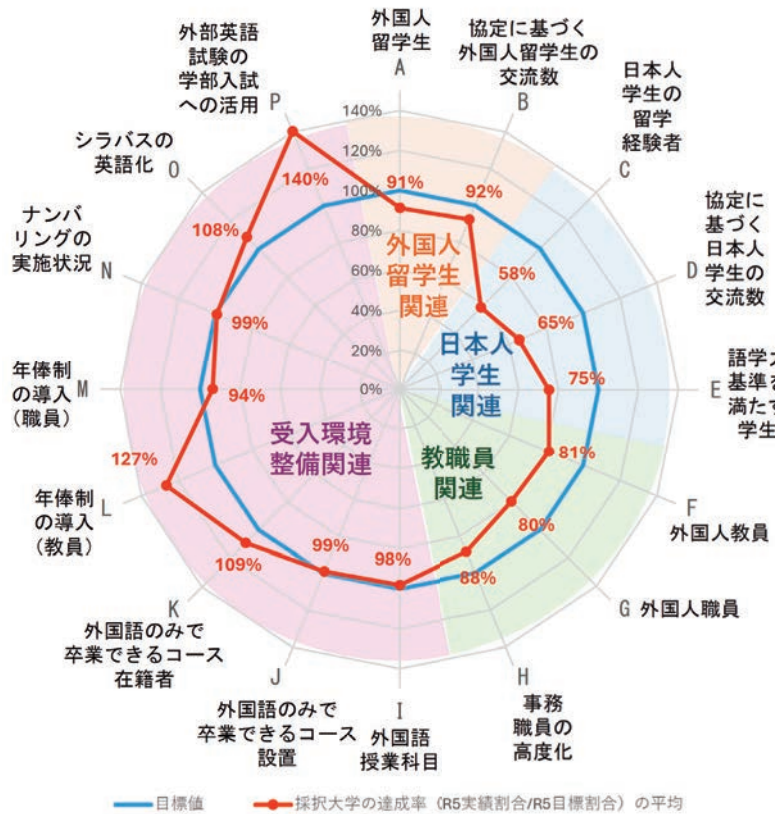
国際化が、一部の大学の一部の学部
に留まるのではなく、今後、SGUに申請したもの、採択されなかった大学や採択大学の多くの学部
に波及することが今後の課題と言えます。

さらに、採択37校の、2023年度の事業終了時の達成

目標に対する指標の達成状況（図3）を見ると、日本人学生の留学経験者58%、協定に基づく日本人学生の交流数65%、語学力基準を満たす学生75%、外国人教員81%、外国人職員80%、事務職員の高度化88%と、他の指標が軒並み100%近くかそれ以上の達成状況にあると比べてかなり見劣りします。

SGUの最終目標は、大学の国際競争力の強化と高等教育の国際的通用性の向上、そして他大学への波及にありましたが、結果はどうだったのでしょうか。

図3 SGUの2023年度目標に対する主な指標の達成状況



（出典：スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU）留学生就職促進プログラム／留学生就職促進教育プログラム認定制度の事業内容・成果について 令和7年5月 文部科学省高等教育局）

3 スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会「SGU事後評価結果の総括」（2025年3月19日）。

4 文部科学省HPによる。

まず、「国際競争力強化」ですが、結果は次頁表2の通りです。この結果を見ると、SGU申請時に、タイムズまたはQSのランキングでトップ100位以内を目標としていた8校のうちタイムズは2校、QSは4校といずれも増減なしという結果になりました。また、QSでは、100位以内の大学を見ると、東京工業大学以外の3校はいずれも順位を下げていますから、SGUの目指した国際的競争力の強化という目標は十分に達成されたとは言えません。日本の大学も頑張ったのかもしれませんが、順位は相対的なものですから、日本以外の国の大学がもっと頑張っているのでしょう。

では、「高等教育の国際的通用性の向上」はどうでしょうか。SGUにおいて、「高等教育の国際的通用性」を示す指標は、「外国語のみで卒業できるコースの設置状況」、「外国語授業科目」などですが、これらは、概ね目標値を達成しています。

しかし、本当の意味での国際的通用性は、大学の外国人留学生の状況に現れていると見るのが妥当ではないでしょうか。そこで、日本学生支援機構のデータ⁵と東京大学、京都大学のデータによって外国人留学生の概況を見てみましょう。それによると次のような傾向が明らかになります。

・大学（学部・大学院）の外国人留学生数は、間にコロナ禍があったとはいえ、2019年から24年の**5年間に、142,691人から145,636人へと2,675人、2.06%しか増えていません。しかも、学部生は、89,602人から87,421人へと2,181人減少しています。**次頁表3として、SGUトップ型に採択された東京大学と京都大学の学部・大学院別の外国人留学生数と全学生に占める比率、2021年からの伸び率を示しましたが、両大学とも学部生は減少しています。大学院生に関しては、東大では博士課程の学生の伸びが3割強と顕著ですが、修士は微増にとどまり、京大では修士は

減少、博士は約11.9%増となっています。

・外国人留学生の出身国は、依然として中国、ネパール、ヴェトナムなどアジア諸国が9割以上（2024年は92.5%）を占め、欧州4.0%、北米1.3%、アフリカ0.8%と地域的な偏りが大きく、真の意味での国際化＝留学生の多様化は進んではいません。この傾向は、東大（84.09%）でも京大（88.05%）でも変わりません。「国際的」通用性というのであれば、アジアだけでなくそれ以外の幅広い地域からも多くの留学生が集まるような魅力的な教育環境を用意する必要があります。

・留学生の専攻分野が、人文科学(42.6%→47.1%)、社会科学（27.1%→22.9%）に偏っている一方、わが国の大学が「強い」とされる工学（12.9%→12.4%）、理学（1.4%→1.4%）、農学（1.3%→1.2%）で学ぶ留学生に限られており、この5年間でも大きな変化はありません。この点からも、わが国の大学の「国際的通用性」に疑問符がつきます。

・留学生が、一部の「国際化」大学に集中しています。ちなみに、留学生の多い大学は、早稲田大学（5,562人）、東京大学（4,793人）、立命館大学（3,258人）などですが、これら3校を含むトップ10大学（うち8校はSGU採択校）だけで、留学生総数の21.9%、トップ20大学で35.7%を占めています。この状況は、5年前（それぞれ23.2%、36.1%）とほとんど変化がありません。大学の規模や分野別構成を考慮に入れずに計算すると、800を超える大学の残り約780校の1校当たりの留学生数は約120人に留まっているのです。

この結果を要約すれば、残念ながら、世界大学ランキングにおけるわが国大学の顕著な上昇は実現せず、高等教育の国際的通用性（留学生の動向）で見たSGU事業の他大学への波及効果も、過去5年間を比較する限り、目に見える変化はないということになります。

表2 タイムズ、QS世界大学ランキングにおける採択大学の目標順位（平成30年度補正の構想調書による）と実績の比較（2013年と2025年）

タイムズ（THE）	QS
2025年実績で100位以内の大学（2校→2校）	2025年実績で100位以内の大学（4校→4校）
・東京大学28位（↗前年29位） ・京都大学55位（→前年55位）	・東京大学32位（↘前年28位） ・京都大学50位（↘前年46位） ・東京工業大学84位（↗前年91位） ・大阪大学86位（↘前年80位）
2025年実績の順位とSGU終了時の目標順位（平成30年度補正の構想調書による）	
・東京大学28位(目標：世界トップ10分野のさらなる強化) ・東北大学120位(目標：世界30傑) ・大阪大学162位(目標：世界30位入り、2031年にトップ10) ・東京工業大学195位(目標：世界トップレベル) ・九州大学301～350位(目標：世界80位) ・北海道大学351～400位(目標：世界100位以内)	・東京大学32位(目標：世界トップ10分野のさらなる強化) ・東京工業大学84位(目標：世界トップレベル) ・大阪大学86位(目標：世界30位入り、2031年にトップ10) ・東北大学107位(目標：世界30傑) ・名古屋大学152位(目標：世界トップ100) ・九州大学167位(目標：30位) ・北海道大学173位(目標：世界100位以内) ・東京医科歯科大学661～670位(目標：世界100位以内)

（出典：SGU採択大学の構想調書などから筆者作成。）

表3 東京大学、京都大学の外国人留学生数と比率の推移

大学	学部	修士	博士	合計
東京大学 (全学生に対する比率) (5年間伸び率)	490→472人 (3.35%) (-3.67%)	1,847→1,882人 (25.95%) (+1.90%)	1,773→2,374人 (35.11%) (+33.91%)	4,110→4,728人 (16.83%) (+15.04%)
京都大学 (全学生に対する比率) (4年間伸び率)	234→214人 (1.68%) (-8.55%)	871→803人 (16.38%) (-7.81%)	1,171→1,310人 (33.02%) (+11.87%)	2,276→2,327人 (10.76%) (+2.24%)

（東京大学、京都大学HPから筆者作成。なお、専門職学位課程の学生は含まず。また、東大は、2021～25年、京大は2021～24年のそれぞれ5月1日現在の数字。）

⁵ 2024（令和6）年度 外国人留学生在籍状況調査結果。

表4 主なSGU採択大学(トップ型)の「自走化計画」より

大学	財政基盤の強化のための「自走化計画」より
筑波大学	企業から寄付金を獲得して、学生への奨学金に充てる。50周年基金として10億円目標に寄付金募集。余裕金の運用収入。クラウド・ファンディングを既に実施、6,600万円を調達。大学発ベンチャーに対して、大学で生まれる知的財産権を包括的に譲渡することにより新株予約権を獲得。短期留学生受け入れのフィーを拡充。
名古屋大学	寄付金受け入れ制度を確立、大学基金を使った奨学金制度を改善、クラウド・ファンディングを導入、リカレント教育収入、共同研究間接経費増、海外派遣プログラムについてフィーを学生から徴収。起業家育成短期研修有料化（シンガポールなど）。高い研究力を生かし外部資金獲得。
大阪大学	外部資金獲得、未来基金の拡充、資産（土地、資金）運用収入の拡大。
広島大学	大学基金拡充（2024年までに100億円）、資産運用、企業との大型共同研究（24年度までに7億6500万円）、海外研修生のプログラム・フィーの拡大。
九州大学	ファンドレイジング機能を強化し、同窓生との連携強化により寄付金獲得。経済的な理由で海外留学が困難な学生支援をテーマにしたクラウド・ファンディングを実施。国際関連業務を外部化、人件費を節減。国際関連組織の再編や既存事業の徹底的な見直しにより国際化に必要な財源を確保。
慶應義塾大学	2023年度までに既にSGU基金として90億円を積み立て、第3号基本金（2018年度731億円）を運用し、奨学金等に充てる。年間7億円をSGU事業に投入。短期留学生からフィー徴収。
早稲田大学	聖域なき財政構造改革により毎年帰属収支差額を確保、海外ファンドレイジング、WASEDAサポーターズ基金を拡充、学生の海外渡航を支援、クラウド・ファンディングの拡充、積極的かつ長期の資金運用の新たな仕組み構築、外部資金を活用して研究推進体制の自立回転を実現（研究の事業化）。

（出典：各大学の構想調査から筆者作成。）

3 今後の大学の国際化戦略

文部科学省は、SGU事業を単なる大学の国際化支援のためのものではなく、経済社会・高等教育のグローバル化、生産年齢人口の減少、デジタル革命・イノベーション創発の必要性、都市一極集中と地方創生といっ

た積年の課題を背景に、「大学は国の成長を牽引する知的拠点としての役割が求められる」として、国際化と共に「徹底した大学改革」を実現することを目指していました。言うまでもなく、10年間にSGU採択大学37校に投じられた国費は400数十億円に過ぎず、1校あたりにすれば、トップ型で約10億円、グローバル化牽

引型で5億円弱に留まっており、大学独自の自己資金を加えても、これだけの資金で国際競争力の強化、国際的通用性の向上が一気呵成に実現することはないでしょう。

一口に大学の国際化と言いますが、その実現には、先の「SGUのロジック・モデル」が言うように、大学の「組織文化」の抜本的な変革が求められますが、「組織文化」は、我が国の文化的背景の下、永年の間に培われてきたものであり、一朝一夕に変えることはできません。

例えば、外国人教員を増やすと、日本人の教員採用枠が減ることになります。また、教育カリキュラムを社会・経済の変化に応じて見直したり、授業方法を双方向の対話型に移行するには、一人一人の教員の理解、納得、共感を得るという地道ながらも息の長いプロセスが必要です。

しかし、原点に立ち返って、国際競争力の強化も国際的通用性の向上も、補助金があるから行うというものではないはずです。少なくとも、SGUに応募するほどの大学は、たとえ選に漏れても、一旦志を立てた以上、規模を縮小してでも計画の実現に努力すべきでしょう。実際、トップ型には16件、グローバル化牽引型には93件が応募しています。これら109件のうち、SGUに採択されなかった72件が10年間でどの程度、申請した計画を実行したか、そしてどのような成果を挙げたかは、我が国の大学の国際化の本気度を見通すうえで非常に重要です。

例えば、愛媛大学は、SGUに申請し、採択されなかったのですが、その後も、「地域協働型国際化推進モデル」として、「継続性と粘り強さを特徴とする持続可能な国際化推進モデル」を実行しています⁶。

いずれにしても、SGUの終了は、国際化の終わりではありません。文科省も、採択大学に、補助金終了後の「自走化計画」として、資金の獲得戦略・計画の提

出を求めました。主な採択大学の自走化計画をまとめたのが前頁表4ですが、筑波大学、広島大学や慶應義塾大学のように、具体的な金額を含む資金計画をたて、あるいは既に必要な資金を確保した大学がある一方で、具体的な計画は「これから」との印象を受ける大学もあります。

国際化を推進していくためには、まず何よりも、学長、副学長、学部長、学科長など、教育に責任を持つ大学執行部がリーダーシップを発揮する必要があります。

また、SGU終了後も留学生交流を拡大するためには、教職員の海外派遣や研修にも少なからぬ費用が必要になりますし、学生に対する奨学金の拡充や留学生宿舍の拡充など一定の資金を確保しておく必要があります。「スーパースターグローバル」大学の名にふさわしい大学の実現を目指して、学長以下が明確で強力なリーダーシップを発揮し、計画を現場で支え、実行する教職員の理解と共感を得、そして計画の実現を資金面から支える財政基盤の確立がSGUの成否を決めることになると思います。

本間 政雄 プロフィール



1948年生まれ。1971年名古屋大学法学部卒業後、旧文部省入省。74～76年London School of Economics大学院留学、MSc取得。OECD、在仏大使館勤務を経て、99年文部省総務審議官。2001年京都大学事務局長（04年理事・副学長）、05年大学評価・学位授与機構教授、07年立命館副総長、10年アジア太平洋大学副学長、2013～21年梅光学院理事長、13～14年関東学院常務理事。

6 詳細は、大学マネジメント研究会の「大学マネジメント」誌2025年7月号所収の小林修愛媛大学学長特別補佐「地方大学の持続可能な大学」を参照のこと。

国際科学コンテストで優れた能力を発揮された生徒の皆様のご活躍と、所属学校様の一層の発展を祈念して、僭越ながらご紹介させていただきます。

2025年国際科学オリンピック

①概要および「数学」の成績

● 理数系7分野の競技が、世界7カ国の都市で開催される

2025年7月～8月にかけて、世界各地で国際科学オリンピックが開催されました。

理数系7分野（数学、化学、生物学、物理、情報、地学、地理）のそれぞれの競技に、世界中の高校生等が一堂に会して日ごろの成果を競い合うとともに、参加者同士で国・文化の垣根を越えた交流を深めました。

日本からは国内予選の参加者（のべ1.9万人以上）より選抜されたのべ31名の代表生徒が出場し、金メダル8個、銀メダル19個、銅メダル1個の計28個のメダルを獲得するなど、優秀な成績を収めました。

文部科学省では、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）を通じて、この国際科学オリンピックに参加する高校生等を支援するとともに、国際的な科学技術コンテストにおいて、特に優秀な成績をおさめた者等に対して文部科学大臣表彰等を行っており、今大会でのメダル獲得者等にも同表彰等が授与されました。

● 本記事で紹介する「国際科学オリンピック」大会一覧

大会名	2025年開催日程	開催地（開催都市）	日本代表のメダル
国際数学オリンピック	7月10日～7月20日	オーストラリア（サンシャインコースト）	金3、銀2、銅1
国際化学オリンピック	7月5日～7月14日	アラブ首長国連邦（ドバイ）	金1、銀3
国際生物学オリンピック	7月20日～7月27日	フィリピン共和国（ケソン）	銀4
国際物理オリンピック	7月17日～7月25日	フランス（パリ）	金3、銀2
国際情報オリンピック	7月27日～8月3日	ボリビア（スクレ）	金1、銀3
国際地学オリンピック	8月8日～8月16日	中国（済寧）	銀4
国際地理オリンピック	7月27日～7月31日	タイ（バンコク）	銀1

● 国際数学オリンピック参加生徒の成績について

1. 受賞状況	金メダル 3名、銀メダル 2名、銅メダル 1名 ※上記6名が文部科学大臣表彰を受賞。 ※金メダルは参加者の約12分の1、銀メダルは約12分の2、銅メダルは約12分の3の割合で与えられる。		
2. 参加者及び受賞者詳細	かのう さとし 狩野 慧志さん はまかわ しんじろう 濱川 慎次郎さん やまもと かずき 山本 一揮さん わかすぎ なおと 若杉 直音さん あんどう しょうご 安藤 匠吾さん いせ と こうた 伊勢戸 皓太さん	長野県松本深志高等学校（長野県）3年 ラ・サール高等学校（鹿児島県）2年 筑波大学附属駒場高等学校（東京都）2年 帝塚山学院泉ヶ丘高等学校（大阪府）3年 灘高等学校（兵庫県）1年 灘中学校（兵庫県）2年	金メダル 金メダル 金メダル 銀メダル 銀メダル 銅メダル
3. 参加国数/人数	110か国・地域/630名		
4. 場所/期間	オーストラリア・サンシャインコースト/2025年7月10日(木)～7月20日(日)		
5. 派遣機関	公益財団法人数学オリンピック財団		

◆大会概要

- ・国際数学オリンピックは1959年にルーマニアにて第1回大会が開催。
- ・2025年のオーストラリア大会は、第66回目。
- ・日本は、1990年から参加を開始し、毎年6名の生徒を派遣。本年は36回目の参加。
- ・昨年のイギリス大会は、108か国・地域から609名の生徒が参加し、日本は金メダル2名、銀メダル2名、銅メダル1名、優秀賞1名受賞（国別順位14位）。
- ・本年のオーストラリア大会は110か国・地域から630名の生徒が参加し、日本は金メダル3名、銀メダル2名、銅メダル1名受賞（国別順位4位）。

◆国際数学オリンピック(The International Mathematical Olympiad)について

国際数学オリンピックは、世界各国・地域の数学的才能に恵まれた若者を見出し、その才能を伸ばすチャンスを与えること、また世界中の数学好きの若者や教育関係者であるリーダーたちが互いに国際交流を深めることを目的として開催されている。

大会の参加資格は、「コンテスト当日20歳未満で大学教育（または、それに類するもの）を受けていないもの」とされており、各国6名まで参加できる。参加者は1日4時間半、各3問の筆記試験を2日間にわたり取り組み、その得点合計でメダルを競う。

第1回大会は、1959年にルーマニアにおいて、ハンガリー、ブルガリア、ポーランド、旧チェコスロバキア、旧東ドイツ、旧ソ連を招待して開催された。その後、1980年を除き毎年7月に開催されている。

2025年国際科学オリンピック

②「化学」「生物学」の成績

● 国際化学オリンピック参加生徒の成績について

1. 受賞状況	金メダル 1名、銀メダル 3名 ※上記4名が文部科学大臣表彰を受賞。 ※金メダルは参加者の約1割、銀メダルは約2割、銅メダルは約3割の割合で与えられる。		
2. 参加者及び受賞者詳細	わたなべしゅうへい 渡邊 周平さん あまの はると 天野 春翔さん いどぬま ゆうせい 井戸沼 悠成さん そうだ しげる 早田 茂さん	奈良工業高等専門学校(奈良県) 3年 麻布高等学校(東京都) 3年 筑波大学附属駒場高等学校(東京都) 3年 三田国際科学学園高等学校(東京都) 3年	金メダル 銀メダル 銀メダル 銀メダル
3. 参加国数/人数	90か国・地域・他/354名		
4. 場所/期間	アラブ首長国連邦(ドバイ) /2025年7月5日(土) ~7月14日(月)		
5. 派遣機関	「夢・化学-21」委員会、公益社団法人日本化学会		

◆大会概要

- ・国際化学オリンピックは1968年に東欧3か国(ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド)にて第1回大会が開催。
- ・2025年のアラブ首長国連邦大会は、第57回目。
- ・日本は2003年から参加を開始し、毎年4名の生徒を派遣。本年は23回目の参加。
- ・昨年のサウジアラビア大会は、90か国・地域・他から327名の生徒が参加し、日本は金メダル2名、銀メダル2名受賞。
- ・本年のアラブ首長国連邦大会は、90か国・地域・他から354名の生徒が参加し、日本は金メダル1名、銀メダル3名受賞。

◆国際化学オリンピック(International Chemistry Olympiad)について

1968年に東欧3か国(ハンガリー、旧チェコスロバキア、ポーランド) が始めた高校生の学力試験から発展した、1年に1度開催される「化学」の国際大会である。

大会は世界の高校生等が一堂に会し、化学の実力を競うと同時に親交を深めることを目的としている。例年は毎年7月に10日間の日程で開催され、生徒らはそれぞれ5時間の実験課題と理論問題に挑戦する。日本は2003年のアテネ大会より参加している。

● 国際生物学オリンピック参加生徒の成績について

1. 受賞状況	銀メダル 4名 ※上記4名が文部科学大臣表彰を受賞。 ※金メダルは参加者の約1割、銀メダルは約2割、銅メダルは約3割の割合で与えられる。		
2. 参加者及び受賞者詳細	たかやま かほ 高山 歌歩さん たけのうち りょうすけ 竹之内 涼介さん まるたにいたる 丸谷 周さん おおしま ひろき 大島 寛生さん	洛南高等学校(京都府) 1年 開成高等学校(東京都) 3年 筑波大学附属駒場高等学校(東京都) 3年 埼玉県立大宮高等学校(埼玉県) 3年	銀メダル 銀メダル 銀メダル 銀メダル
3. 参加国数/人数	79か国・他/305名		
4. 場所/期間	フィリピン共和国(ケソン) /2025年7月20日(日) ~7月27日(日)		
5. 派遣機関	国際生物学オリンピック日本委員会		

◆大会概要

- ・国際生物学オリンピックは1990年に現在のチェコ共和国で第1回大会が開催。
- ・2025年のフィリピン共和国大会は、第36回目。
- ・日本は、2005年から参加を開始し、毎年4名の選手を派遣。本年は21回目の参加。
- ・昨年のカザフスタン共和国は、81か国・地域から295名の生徒が参加し、日本は4名全員が銀メダル受賞。
- ・本年のフィリピン共和国大会は、79か国・他から305名の生徒が参加し、日本は4名全員が銀メダル受賞。

◆国際生物学オリンピック(International Biology Olympiad)について

国際生物学オリンピックは、1990年に現在のチェコ共和国のオロモウツで第1回大会が開催された、生物学に関心を持つ高校生等を対象としたコンテストであり、以下を目的としている。

a) すぐれた生徒を一堂に会させて、刺激をあたえ挑戦させることにより、その能力をのばし、科学者にそだてる。生物学の美しさと様々な意義を明らかにして、とりわけ自然や環境の保護をはかり、社会における生物学の重要性を訴える。

b) 生物学教育に関するアイデアと教材の交換や比較を行うことにより、各国の生物教育を向上させる。

c) 国際生物学オリンピックにかかわるさまざまな組織の交流を図ることにより、生物学分野での活動の相互理解を図る。

国際大会は、毎年7月に開催され、実験問題と理論問題が課される。

2025年国際科学オリンピック

③「物理」「情報」の成績

● 国際物理オリンピック参加生徒の成績について

1. 受賞状況	金メダル 3名、銀メダル 2名		
	※上記5名が文部科学大臣表彰を受賞。 ※金メダルは参加者の成績上位約8%、銀メダルは同じく約25%、銅メダルは同じく約50%の割合で与えられる。		
2. 参加者及び受賞者詳細	かくたに けんとう 角谷 賢斗さん はまた たいせい 濱田 泰成さん さとう ようた 佐藤 耀大さん いどぬま ゆうせい 井戸沼 悠成さん いたみ しょうじ 伊丹 翔治さん	開成高等学校（東京都）3年 灘高等学校（兵庫県）3年 横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校（神奈川県）3年 筑波大学附属駒場高等学校（東京都）3年 灘高等学校（兵庫県）3年	金メダル 金メダル 金メダル 銀メダル 銀メダル
3. 参加国数/人数	91か国・地域/406名		
4. 場所/期間	フランス(パリ) /2025年7月17日(木) ~7月25日(金)		
5. 派遣機関	公益社団法人物理オリンピック日本委員会		

◆大会概要

- ・国際物理オリンピックは1967年にポーランドにて第1回大会が開催。
- ・2025年のフランス大会は、第55回目。
- ・日本は、2006年から参加を開始し、毎年5名の生徒を派遣(※)。本年は18回目の参加。
- ・一昨年の日本大会は、80か国・地域から387名の生徒が参加し、日本は金メダル2名、銀メダル3名受賞。
- ・本年のフランス大会は、91か国・地域から406名の生徒が参加し、日本は金メダル3名、銀メダル2名受賞。

※2024年のイラン大会は、不安定な中東情勢と現地への渡航の安全性を保証できない懸念が払拭できないことから、参加を中止し、日本代表選手全員を第8回ヨーロッパ物理オリンピックに派遣した。

◆国際物理オリンピック(International Physics Olympiad)について

国際物理オリンピックは、1967年にポーランドのワルシャワで第1回大会が開催された物理の国際的なコンテストであり、開催国を持ち回りとして毎年開催されている。参加資格は、20歳未満で且つ大学などの高等教育を受けていないこととされている。各国から高校生等が参加し、物理学に対する興味関心と能力を高め合うとともに、国際的な交流を通じて参加国における物理教育を一層発展させることを目的としている。科学・技術のあらゆる分野において増大する物理学の重要性、また次代を担う青少年の一般的教養としての物理学の有用性からも重要な国際イベントである。成績優秀者には金メダル(参加者の成績上位約8%)、銀メダル(同じく約25%)、銅メダル(同じく約50%)が与えられる。

各国内で選抜された最大5名の代表選手たちが、リーダーやオブザーバーからなる引率役員とともに参加する。8日間という長い会期の間、選手は理論問題・実験問題にそれぞれ5時間をかけて挑戦するほか、開催国の文化に触れる様々なイベントに参加することを通じて、他の国々からの参加者や主催者と国際的な交流を深める。引率役員は、試験問題についての討論会に参加し、自国語への翻訳作業や試験結果についての調整などを担う。各国の引率役員が理科教育推進のための国際的なネットワークを形成し、自国の理科教育を国際標準に照らして見直す良い機会ともなっている。

● 国際情報オリンピック参加生徒の成績について

1. 受賞状況	金メダル 1名、銀メダル 3名 ※上記4名が文部科学大臣表彰を受賞。 ※金メダルは約12分の1、銀メダルは約12分の2、銅メダルは約12分の3の割合で与えられる。		
2. 参加者及び受賞者詳細	おおた かつき 太田 克樹さん さかやま こうだい 坂山 航大さん ひらさわ ゆうや 平澤 由埜さん まつば やまと 松葉 大和さん	筑波大学附属駒場高等学校（東京都）3年 開成高等学校（東京都）3年 神奈川大学附属高等学校（神奈川県）1年 武蔵高等学校（東京都）3年	金メダル 銀メダル 銀メダル 銀メダル
3. 参加国数/人数	84か国・地域/330名		
4. 場所/期間	ボリビア(スクレ) /2025年7月27日(日) ～8月3日(日)		
5. 派遣機関	一般社団法人情報オリンピック日本委員会		

◆大会概要

- ・国際情報オリンピックは1989年にブルガリアのブラベツにて第1回大会が開催。
- ・2025年のボリビア大会は、第37回目。
- ・日本は、1994年から3年間毎年2名の選手を派遣した後、9年間の間断を経て、2006年から毎年4名の選手の派遣を再開。本年は23回目の参加。
- ・昨年のエジプト大会は91か国・地域から362名の選手が参加し、日本は金メダル2名、銀メダル2名受賞。
- ・今年のボリビア大会は84か国・地域から330名の選手が参加し、日本は金メダル1名、銀メダル3名受賞。

◆国際情報オリンピック(International Olympiad in Informatics)について

国際情報オリンピックは、高校生以下の生徒を対象として、数理情報科学の問題解決能力をもつ生徒を見出し、その能力の育成を助け、また、各国の選手・教育者同士の国際交流を図ることを目的としている。

大会の参加資格は「大会開催前年の9月から12月にかけて代表となる国の中等教育機関に在籍し、大会開催年の7月1日に20歳以下であること」とされている(国内選抜大会である日本情報オリンピック(JOI)では、国際大会開催年の4月1日時点で20歳未満である高校生以下を日本代表の選考対象としている)。

国際情報オリンピックで出題される問題では、原則として、与えられた問題を解く、効率が良いアルゴリズムや質の良いアルゴリズムを考え出し(アルゴリズムの設計)、そのアルゴリズムに基づき正しく動作する解法プログラムを作成すること(アルゴリズムの実装)が求められる。使用できるプログラミング言語はC++である。

競技日は2日あり、選手は各競技日に5時間で3問を解く。問題は、実社会で直面する様々な課題を模したものとなっており、それを数理情報科学によって解決する数理的な問題解決能力(数学的な理解力、分析力、思考力、発想力など)が強く求められる。

2025年国際科学オリンピック

④「地学」「地理」の成績

● 国際地学オリンピック参加生徒の成績について

1. 受賞状況	銀メダル 4名 ※上記4名が文部科学大臣表彰を受賞。 ※金メダルは参加者の約10%、銀メダルは20%、銅メダルは約30%の割合で与えられる。		
2. 参加者及び受賞者詳細	いしだ ゆいき 石田 結寛さん さかい しんたろう 酒井 伸太朗さん しみず れな 清水 玲那さん ふちがみ りおん 淵上 理音さん	青森県立青森高等学校（青森県）3年 灘高等学校（兵庫県）1年 神戸女学院高等学部（兵庫県）3年 富山県立雄峰高等学校（富山県）3年	銀メダル 銀メダル 銀メダル 銀メダル
3. 参加国数/人数	28か国・地域/110名		
4. 場所/期間	中国(済寧)/2025年8月8日(金)～8月16日(土)		
5. 派遣機関	特定非営利活動法人地学オリンピック日本委員会		

◆大会概要

- ・国際地学オリンピックは、2007年に韓国にて第1回大会が開催。
- ・2025年の中国大会は、第18回目。
- ・日本は、2008年から参加を開始し、毎年4名の生徒を日本代表として派遣。本年は17回目の参加。
- ・昨年の中国・北京大会は、30か国・地域から116名の生徒が参加し、日本は金メダル2名、銀メダル2名受賞。
- ・本年の中国・済寧大会は、28か国・地域から110名の生徒が参加し、日本は銀メダル4名受賞。

◆国際地学オリンピック(International Earth Science Olympiad)について

国際地学オリンピックは、国際地質科学連合(IUGS)の下部組織が支援するInternational Geoscience Education Organization(IGEO)の主要活動として創設された、高校生のための地学の国際大会である。2007年に第1回大会が韓国で開催され、以降、コロナ禍で中止となった2020年を除いて毎年開催されている。大会は、地学分野に秀でた生徒の発掘と地学学習の促進、ならびに地学および地学教育における国際交流・協力の促進を主な目的としている。

● 国際地理オリンピック参加生徒の成績について

1. 受賞状況	銀メダル 1名 ※全参加者の約半数にメダルが与えられ、メダル受賞者のうち金、銀、銅の割合は、およそ1:2:3となる。
2. 参加者及び受賞者詳細	銀メダル ◎井上 遥斗さん 灘高等学校(兵庫県)3年 ○佐藤 大智さん 広島大学附属福山高等学校(広島県)3年 ○日高 洸城さん 宮崎県立宮崎西高等学校(宮崎県)3年 ○山中 公裕さん ラ・サール高等学校(鹿児島県)3年 (文部科学大臣表彰受賞者を◎、文部科学大臣特別賞受賞者を○で示す)
3. 参加国数/人数	47か国・地域/179名
4. 場所/期間	タイ(バンコク)/2025年7月27日(日)～7月31日(木)
5. 派遣機関	国際地理オリンピック日本委員会

◆大会概要

- ・国際地理オリンピックは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」をルーツとする。第1回大会は1996年にオランダで5か国が参加して開催。
- ・2025年のタイ大会は、第21回目。
- ・地理オリンピックは出題、解答を含め、進行すべてが英語のみで行われる。
- ・日本は、2008年から参加を開始し、毎年4名の選手を派遣。本年は15回目の参加。
- ・昨年のアイルランド大会は、46か国・地域から183名の生徒が参加し、銅メダル2名受賞。
- ・本年のタイ大会は、47か国・地域から179名の生徒が参加し、日本は銀メダル1名受賞。

◆国際地理オリンピック(International Geography Olympiad)について

国際地理オリンピックは、1965年、エストニアの大学生が企画した「環バルト海地理競技会」をルーツとし、各国の地理学を学ぶ学生が集まり、共同で問題を作成し地理教育の未来を語り合った。その後、1994年に行われたIGU(国際地理学連合)の総会で、ポーランドとオランダの委員が、「国際地理オリンピック」の実施を提案し、1996年にオランダで5か国が参加して第1回が開催された。

スーパーサイエンスハイスクール（SSH） 2025年度生徒研究発表会表彰校（1）

● 優秀校のべ36校を表彰 奈良女子大学附属中等教育学校に文部科学大臣表彰

文部科学省と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）は、2025年度スーパーサイエンスハイスクール（SSH）生徒研究発表会を、8月6日、7日の2日間で開催しました（現地参集形式で開催）。

全238校のポスター発表から審査を経て代表として選ばれた12校が全体発表会に臨み、最優秀発表を行った「奈良女子大学附属中等教育学校」が文部科学大臣表彰を受賞しました。

その他の代表校に科学技術振興機構理事長賞、審査委員長賞、奨励賞が贈られ、ポスター発表賞、参加生徒による生徒投票賞を含め、のべ36校が表彰されました。

文部科学省では2002年度より、将来の国際的な科学技術人材を育成するために、先進的な理数系教育を実施する高等学校等をSSHに指定しており、2025年度は全国の230校を対象に支援を実施しています。

＜高等教育機関様へ＞理数系の探究・研究活動において優れた実績のある高校について知る資料となれば幸いです。

＜高等学校様へ＞各学校様で探究活動等に取り組まれる際の、優れたモデルケースを知る資料となれば幸いです。

● 各賞受賞校

■文部科学大臣表彰（1校）

学校名	発表テーマ	登録分野
奈良女子大学附属中等教育学校	奈良県生駒市におけるツバメの給餌行動の観察と給餌内容の解析	生物A （主に動物・医学系）

■国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞（1校）

学校名	発表テーマ	登録分野
学校法人池田学園 池田中学・高等学校	画像解析で計測したゲンジボタルの明滅周期	生物A （主に動物・医学系）

■審査委員長賞（2校）

学校名	発表テーマ	登録分野
京都市立京都工学院高等学校	電気化学測定をもっと安くもっと早く簡単に！ ～インピーダンスの高速測定とその解析～	物理・工学
東京都立立川高等学校	流星の自動観測システムの開発と流星群の分析	地学

■奨励賞（8校）

学校名	発表テーマ	登録分野
愛知県立豊田西高等学校	AI自動運転ミニカーの作製と走行精度向上のための検証	数学・情報
名古屋市立向陽高等学校	混線内接円を3次元に拡張する	数学・情報
熊本県立宇土中学校・宇土高等学校	光が描く奇跡と軌跡 ～グラスが映し出す美のメカニズムを解明～	物理・工学
福島県立福島高等学校	ボルサイトの合成とその物性評価 ～最終処分材料としての利用に向けたアプローチ～	化学
学校法人静岡理科大学 静岡北中学校・高等学校	自作炎光光度計によるリチウムイオンの定量	化学
奈良県立青翔高等学校・青翔中学校	植物による血液凝固の仕組みⅣ	生物B （主に植物・農学系）
広島県立西条農業高等学校	養コオロギの廃棄物を細菌の力で土壌改良材に	生物B （主に植物・農学系）
新潟県立長岡高等学校	新潟県長岡市信濃川東岸地域における消雪パイプの錆の由来	地学

※記載は発表会場でのポスター発表ブースの番号順。

【出典】文部科学省HP「令和7年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会表彰校を決定しました」より

2025年度スーパーサイエンスハイスクール 生徒研究発表会について

開催日時	2025年8月6日（水）、8月7日（木）
主催	文部科学省、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）
各賞の選考方法	参加校 238校 SSH指定校 230校 + 過去のSSH経験校 8校 ポスター発表 審査 12校 代表校を選出 12校 ポスター発表賞 全体発表 審査・表彰 1校 文部科学大臣表彰 1校 科学技術振興機構理事長賞 2校 審査委員長賞 8校 奨励賞 （1）SSH指定校及び過去に指定経験のある学校の生徒が、ポスター発表を行い、審査を経て、代表校を選出。 （2）（1）で選出された12校の代表校の生徒が全体発表を行い、最も優秀な研究発表を行った学校に文部科学大臣表彰を授与し、優秀な研究発表を行ったその他1校に科学技術振興機構理事長賞を、2校に審査委員長賞を授与。 （3）全体発表を行った学校のうち、（2）を除いた8校に奨励賞を授与。 （4）（1）で選ばれなかったものの、ポスター発表による審査の結果、評価の高かった学校12校にポスター発表賞を授与。 ＜生徒投票賞＞ 現地に参集した各校の生徒による投票を経て、12校に生徒投票賞を授与。

スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 2025年度生徒研究発表会表彰校 (2)

● ポスター発表賞・生徒投票賞受賞校

■ポスター発表賞（12校）		
学校名	発表テーマ	登録分野
茨城県立緑岡高等学校	校内連絡アプリ「Campus Link Pro」の開発	数学・情報
愛知県立時習館高等学校	ルービッククロックを拡張したパズル「n次元クロック」について	数学・情報
茨城県立並木中等教育学校	ヨウ素・PVAを用いた「究極の黒」の開発	物理・工学
学校法人玉川学園 玉川学園高等部・中学部	人工眼球を用いたベンハムのコマの錯視現象の解明	物理・工学
島根県立出雲高等学校	鉛蓄電池の研究	化学
長野県諏訪清陵高等学校・附属中学校	n-ブチル基を導入したジベンゾイルメタンフッ化ホウ素錯体の分子凝集過程	化学
学校法人奈良学園 奈良学園中学校・高等学校	金魚のサーカディアンリズムの解析	生物A (主に動物・医学系)
宮城県古川黎明中学校・高等学校	ベンハムのコマの主観色に関する錐体細胞レベルでの検討	生物A (主に動物・医学系)
千葉県立佐倉高等学校	ヤブガラシの巻きひげにおけるコイリングと反旋点について	生物B (主に植物・農学系)
福岡県立城南高等学校	発光バクテリア	生物B (主に植物・農学系)
東京都立富士高等学校・附属中学校	太陽像を用いたシーイングの測定	地学
京都府立桃山高等学校	京都府南部に発生する局地的積乱雲「田辺五郎」の発生予報に挑む	地学

■生徒投票賞（12校） ※左記までの各賞受賞校との重複を含みます。		
学校名	発表テーマ	登録分野
市立札幌旭丘高等学校	家賃上昇の抑制に向けた適正家賃推定システムの開発と有効性の検証	数学・情報
茨城県立緑岡高等学校(再掲)	校内連絡アプリ「Campus Link Pro」の開発	数学・情報
学校法人市川学園 市川中学校・高等学校	地政学上の要衝チョークポイントの数式を用いた絶対定義の考察	数学・情報
愛知県立半田高等学校	和包丁に込められた技術を解明!!	物理・工学
東京学芸大学附属高等学校	高校内微小重力実験システムのためのドラッグシールド式落下実験装置と衝撃吸収材の開発	物理・工学
愛知県立旭丘高等学校	SBプロジェクト 高高度気球による成層圏での気象データ収集の試み	物理・工学
兵庫県立宝塚北高等学校	天然多糖類によるダニエル電池の固体二次電池化	化学
鹿児島県立錦江湾高等学校	ムラサキツバメを取り巻く生き物たちの相互関係 ～アリ随伴の正体を探る！～	生物A (主に動物・医学系)
神戸大学附属中等教育学校	足底メカノレセプターの刺激を目的とするインソールの開発	生物A (主に動物・医学系)
奈良女子大学附属中等教育学校(再掲)	奈良県生駒市におけるツバメの給餌行動の観察と給餌内容の解析	生物A (主に動物・医学系)
奈良県立青翔高等学校・青翔中学校 (再掲)	植物による血液凝固の仕組みIV	生物B (主に植物・農学系)
宮崎県立宮崎北高等学校	星食観測の高精度化に向けた誤差要因の検討 ～光干渉と電磁ノイズの影響分析～	地学

※記載は発表会場でのポスター発表ブースの番号順。

【出典】 文部科学省HP「令和7年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会表彰校を決定しました」より

専門学校・大学の学生募集市場の概況を知るための参考としてご覧いただけますと幸いです。

調査データ

マーケティングデータ

専門学校の分野別入学者数推移

文部科学省学校基本調査より、専門学校の分野別入学者数の2020～2024年度の5年間推移をご紹介します。専門学校への入学者数は、近年は減少傾向でしたが、2024年度は増加しており、約25.5万人（前年度より約1.5万人増）となっております。

分野別入学者数についてみると、全8分野のうち「工業」「商業実務」「服飾・家政」「文化・教養」の4分野で前年度より入学者数が増加しており、この4分野の合計で入学者が約2万人増加しています。

入学者数5年間の推移（専修学校のうち専門課程のみ）

	2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
工業関係	44,065	15.76%	44,054	16.11%	39,909	15.81%	37,507	15.59%	41,518	16.26%
				↑		↓		↓		↑
農業関係	2,363	0.85%	2,497	0.91%	2,345	0.93%	2,437	1.01%	2,184	0.86%
				↑		↑		↑		↓
医療関係	63,382	22.67%	63,397	23.18%	61,450	24.35%	56,945	23.67%	51,921	20.33%
				↑		↑		↓		↓
衛生関係	37,952	13.57%	40,191	14.70%	39,701	15.73%	39,471	16.40%	39,262	15.37%
				↑		↑		↑		↓
教育・社会福祉関係	15,363	5.49%	15,805	5.78%	14,870	5.89%	13,818	5.74%	13,804	5.41%
				↑		↑		↓		↓
商業実務関係	39,959	14.29%	36,099	13.20%	27,892	11.05%	26,615	11.06%	37,553	14.70%
				↓		↓		↑		↑
服飾・家政関係	8,510	3.04%	6,901	2.52%	6,165	2.44%	5,881	2.44%	6,461	2.53%
				↓		↓		=		↑
文化・教養関係	67,992	24.32%	64,518	23.59%	60,043	23.79%	57,952	24.08%	62,688	24.55%
				↓		↑		↑		↑
合計	279,586		273,462		252,375		240,626		255,391	

%はその年の全体に対するその分野の割合を示します。小数点以下第3位を四捨五入しています。
矢印は割合（四捨五入した値）が前年より増加した場合は「↑」、減少した場合は「↓」としています。

※各分野における主なジャンル

- 工業関係：測量、土木・建築、電気・電子、無線・通信、自動車整備、機械、電子計算機、情報処理等
- 農業関係：農業、園芸等
- 医療関係：看護、准看護、歯科衛生、歯科技工、臨床検査、診療放射線、はり・きゅう・あんま、柔道整復、理学・作業療法等
- 衛生関係：栄養、調理、理容、美容、製菓・製パン等
- 教育・社会福祉関係：保育士養成、教員養成、介護福祉、社会福祉等
- 商業実務関係：商業、経理・簿記、秘書、経営、旅行、情報、ビジネス等
- 服飾・家政関係：家政、家庭、和洋裁、料理、編物・手芸、ファッションビジネス等
- 文化・教養関係：音楽、美術、デザイン、茶華道、外国語、演劇・映画、写真、通訳・ガイド、動物、法律行政、スポーツ等

調査時期：各年度5月1日現在
データ資料：令和2年～令和6年度学校基本調査（文部科学省ホームページより表にして作成）

大学の分野別入学者数推移

文部科学省学校基本調査より、大学の分野別入学者数の2020～2024年度の5年間推移をご紹介します。大学入学者数は、直近の2年は連続で減少となり、2024年度の入学者数合計は約62.9万人（前年度より約4千人の微減）となりました。

その中で、全分野中「人文科学」「工学」「その他」の3分野では入学者数が増えています。特に「工学」は入学者数と入学者数割合ともに、過去5年で最高となっています。分野別の入学者数割合は「社会科学」が最多で32.42%、次いで「工学」が14.49%です。

入学者数5年間の推移（国立・公立・私立を含む）

	2020 年度		2021 年度		2022 年度		2023 年度		2024 年度	
人文科学	87,207	(13.73%)	84,389	(13.46%)	↓	84,881	(13.36%)	↓	83,452	(13.19%)
社会科学	202,257	(31.85%)	201,320	(32.11%)	↑	205,247	(32.31%)	↑	205,247	(32.43%)
理学	18,388	(2.90%)	18,234	(2.91%)	↑	19,180	(3.02%)	↑	19,707	(3.11%)
工学	90,374	(14.23%)	89,171	(14.22%)	↓	90,728	(14.28%)	↑	90,623	(14.32%)
農学	18,599	(2.93%)	18,000	(2.87%)	↓	18,620	(2.93%)	↑	18,872	(2.98%)
保健	75,288	(11.86%)	75,209	(11.99%)	↑	76,675	(12.07%)	↑	75,989	(12.01%)
商船	—	(—)	204	(0.03%)	—	206	(0.03%)	=	200	(0.03%)
家政	17,866	(2.81%)	17,316	(2.76%)	↓	17,406	(2.74%)	↓	16,416	(2.59%)
教育	47,384	(7.46%)	45,573	(7.27%)	↓	45,328	(7.14%)	↓	45,342	(7.16%)
芸術	19,486	(3.07%)	19,082	(3.04%)	↓	19,166	(3.02%)	↓	19,518	(3.08%)
その他	58,154	(9.16%)	58,542	(9.34%)	↑	57,719	(9.09%)	↓	57,536	(9.09%)
合計	635,003		627,040			635,156			632,902	

%はその年の全体に対するその分野の割合を示します。小数点以下第3位を四捨五入しています。
矢印は割合（四捨五入した値）が前年より増加した場合は「↑」、減少した場合は「↓」としています。

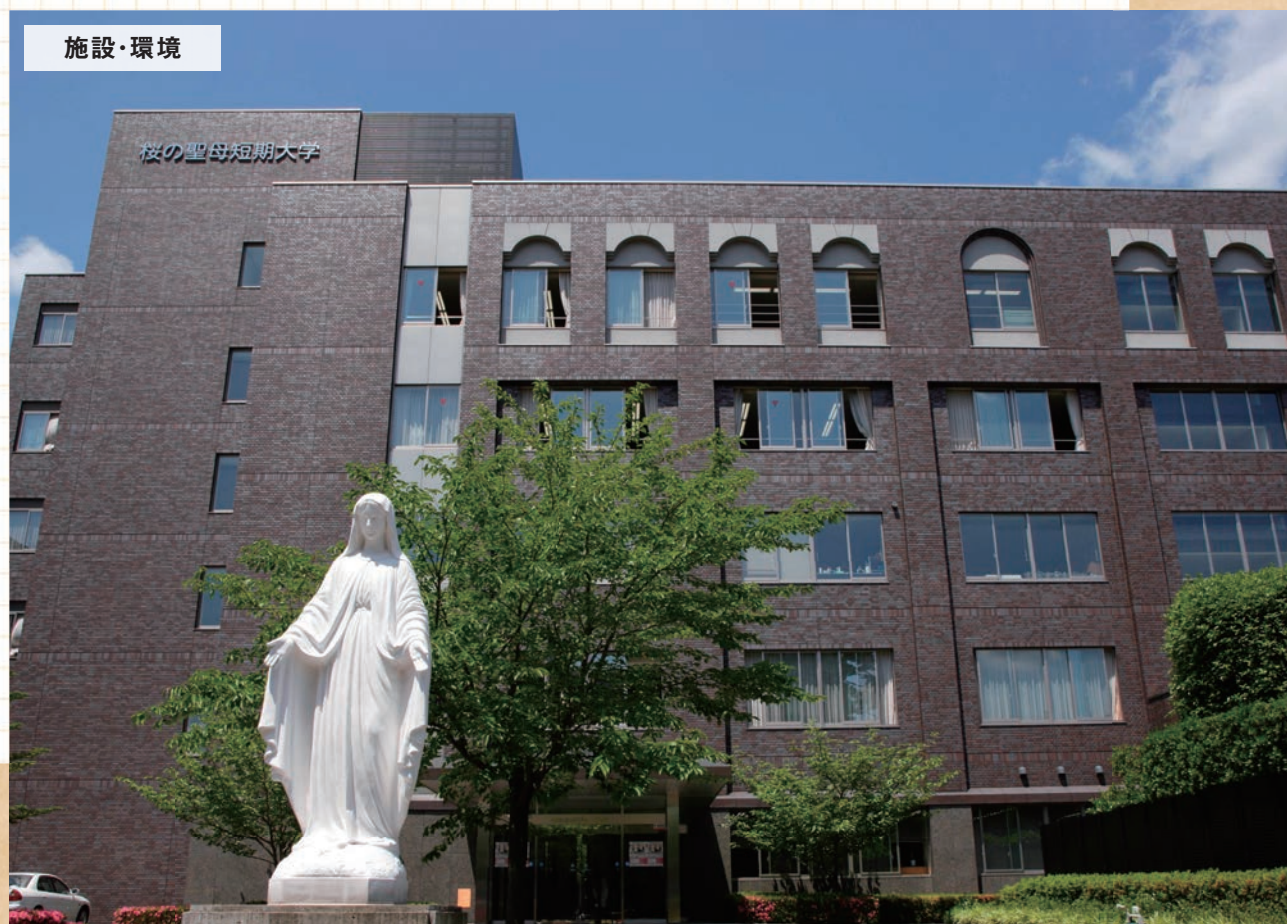
※学部系統における主な学問

- 人文科学：文学、史学、哲学等
- 社会科学：法学・政治学、商学・経済学、社会学等
- 理学：数学、物理学、化学、生物学、地学等
- 工学：機械工学、電気通信工学、土木建築工学、応用化学、応用理学、原子力工学、繊維工学、船舶工学、航空工学、経営工学、工芸学等
- 農学：農学、農芸化学、農業工学、農業経済学、林学、獣医学、畜産学、水産学等
- 保健：医学、歯学、薬学、看護学等
- 商船：商船学
- 家政：家政学、食物学、被服学、住居学、児童学等
- 教育：教育学、小学校課程、中学校課程、中等教育学校課程、養護学校課程、体育学、特別支援教育課程等
- 芸術：美術、デザイン、音楽等
- その他：教養学、総合科学、教養課程（文科）、教養課程（理科）、教養課程（その他）、人文・社会科学、国際関係学（国際関係学部）、人間関係科学等

調査時期：各年度5月1日現在
データ資料：令和2年～令和6年度学校基本調査（文部科学省ホームページより表にして作成）

大学の充実の施設を紹介

施設・環境



多目的の講義室を備えたマルグリット館

桜の聖母短期大学

(私立短期大学／福島県福島市)

2025年に創立70周年を迎える当校は、その長い歴史による伝統と、多彩な施設・設備により学生たちの学びを支え、学生生活を豊かなものにしている。



貴重な資料を保管しているコングレガシオン・ド・ノートルダム記念室



700名以上収容可能な大ホール

学校 Data

【桜の聖母短期大学】
〒960-8585
福島県福島市花園町 3-6

施設・環境



4学部6学科の学生が学ぶキャンパスで医療人の基礎を築く

朝日大学

(私立大学／岐阜県瑞穂市)

2025年4月、救急救命学科開設に伴い最新シミュレータ、医療機器、豊富な資器材を完備した実習室を整備。現場の即戦力となる医療人を養成する最良の環境づくりがなされている。



救命現場に近い環境で、実践力を磨く実習室



大学病院で実際に使用される高規格救急車には岐阜県下初導入の電動ストレッチャーを搭載

学校 Data

【朝日大学】
〒501-0296
岐阜県瑞穂市穂積 1851

専門学校の充実の施設を紹介



左上：キッズコーナー 右上：アーティストフロア 左下：保育ルーム 右下：レセプションルーム（薬局の受付・待合室）

日本こども福祉専門学校

（専門学校／新潟県新潟市）

新潟駅より徒歩1分的好アクセスの校舎。専門的な技術を身につけるための教室・設備が、こども保育・くすり総合の両学科で備えられており、働く現場と同じ環境でレッスンを受けることができる。



レセプションルーム：実際のドラッグストアに近い実習室で、接客技術を身につけることができる



各階の学生ラウンジには学生専用の自動湯沸かしも完備

学校 Data

【日本こども福祉専門学校】
〒950-0086
新潟県新潟市中央区花園 1-4-8



上：12Fラウンジ 左下：クリエイティブラボ 右下：ブライダル実習室

専門学校 岡山情報ビジネス学院

（専門学校／岡山県岡山市）

岡山県初の情報系学科を有する専門学校として創立し、2025年に創立40周年を迎えた。岡山駅より徒歩2分の校舎内には、授業や休憩時間、学校行事など、快適な学校生活をサポートする施設・設備が揃う。



校舎は駅から徒歩2分的好立地



オンライン面接専用ブースも設置するキャリアサポート室

学校 Data

【専門学校 岡山情報ビジネス学院 (OIC)】
〒700-0024
岡山県岡山市北区駅元町 1-4 ターミナルスクエア 6 階

学校経営アカデミー

第81号

第7巻 第9号 通巻81号

発行 2025年10月

編集人 上村 達

編集 今田 龍介

島崎 洵子／峯野 起彰／寺田 雅俊

スタッフ 奥野 史恵／福田 涼／南川菜津美／多和田昌子

発行所 一般社団法人 学校経営アカデミー

〒530-0015 大阪市北区中崎西 2-4-12 梅田センタービル 17F

TEL.06(6373)8868

Printed in Japan 無断複製・転載を禁ず

一般社団法人 学校経営アカデミー 代表理事 米田英一
株式会社 JS コーポレーション 代表取締役 米田英一

日本の学校®

高校の先生向けセミナー

高校の先生のための ChatGPT 活用講座

名古屋 9/17(水) 名古屋ガーデンパレス

東京 9/19(金) ビジョンセンター西新宿

大好評で終了いたしました。



名古屋



名古屋



名古屋



東京



東京



50年後の学校を目指して
株式会社 JS コーポレーション

本社 大阪市北区中崎西 2-4-12 梅田センタービル 17F

一般社団法人 学校経営アカデミー